

令和6年度 第1回県立スポーツ施設のあり方検討会 議事要旨

日時：令和6年7月19日（金）13:30～15:15

場所：高知県立高知城歴史博物館 ホール

出席：委員8名中8名が出席

出席委員：坂本委員、中城委員、前田委員、町田委員、丸委員、森戸委員、
山崎委員、渡邊委員

議事：（1）検討内容について

1 開会

部長挨拶

本県のスポーツ振興については、第三期高知県スポーツ推進計画に基づき、スポーツの裾野の拡大、競技力の向上、スポーツを通じた交流人口の拡大、この3つを大きな柱として、取組を進めている。

取組の成果も、徐々に現れてきており、一方で、これから解決しなければならないことも、多く浮かび上がって来ているというのが現状。

特に今回、県立スポーツ施設、主にスポーツ活動をする場所をさらに充実をさせていくことが、スポーツ振興のうえでも最も重要なポイントではないかと考えている。

これまでもスポーツ施設について、経済界、有識者、様々な方面から、スポーツの試合ができる場所、機会をしっかりと確保していくことについて、声が上がっているところ。今回の検討会においては、特に建設されてから50年経過している県民体育館の再整備に関することが議論の中心になっていくのではないかと考えている。

県民体育館の再整備については、スポーツ施設としての役割は当然のことだが、他分野に活かせるような、文化的な利用を視野に入れたアリーナとしての機能、そして防災機能、そういったものが必要になってくるのではないかと考えているところ。

年4回を想定させてもらっているので、幅広くご意見をいただきたい。

委員長・副委員長の選任

委員長は委員の中から互選、副委員長は委員長の指名により、選任された。

委員長（前田委員）挨拶

今回ご参集いただいた、商工観光、教育、防災等の様々な観点から、この施設の検討を行っていくべきであり、今回県民体育館が建設から50年経ち、改築という形でこういう提案が上がってきたと聞いている。

県民体育館は県民の方にも親しみがある施設であり、今後、何を目的に検討していくべ

きなのかを踏まえて議論ができればと思う。

また、この議論はまちづくりの一環として、この街全体のデザインにもどう寄与するのかという観点を持って、議論が進めばと考えている。

2 議事

議事（1）について、資料を使用して事務局が説明。

●町田委員

県民体育館の第一種住居地域と商業地域が半分半分というのは課題になるのかなと思う。

これが両方あることで、懸念点みたいなところを今度でいいのでお聞きしたい。

○事務局

施設を拡張するとなると、いろんな制限がかかると思うので、具体的な案を示しながら検討を次回以降で進めてまいりたい。

●中城委員

高知市の立場で申しますと、これから県も高知市もどんどん人口が減っていく中で、適切な規模感で、県の施設だけではなく、高知県内の体育施設を含めてどれぐらいの利用者がいて、どれだけの施設の整備が必要かというところを、単純に県民体育館の整備というだけでなく、トータルで考えていく必要がある。

また、ランニングコストをしっかりと考えていかないと、施設が古くなり、施設の修繕費が問題になるので、施設の規模感も含めて、ランニングコストを抑えられるような検討が必要。

○事務局

この資料の中にも県民体育館と同様の施設で、高知市が所管される施設の情報を入れている。県民体育館の再整備を考える中では、高知市の施設との役割分担を整理していかなければならない。

経費についても議論していかないといけないので、今後各専門の方々の立場から意見をいただきたい。

●渡邊委員

県民体育館を今の場所に新設するのか南中高の方に新設するのか、場所によって変わると思うが、障害のある方も使いやすいということを考えると、今ある機能だけではなく、それ以外の運動機能や文化的な機能も併設された総合的なものの方が、中心地というこ

ともあり障害のある方も使いやすい。

今の春野のように利用者がなかなか来づらいという点から見ても、そういった複合施設があった方が使いやすいと思う。

また、ユニバーサルな入口ということを考えても、どちらにしても、防災的に海拔の関係で苦しいと思う。

○事務局

障害のある方も利用しやすい施設を整備することは当然のこと。

また、現状の津波の心配というのはこの2つの敷地においては、どうしてもつきまとう。対策というよりは、すぐに避難できる工夫がどのようにできるのか、専門の立場から、細かくご意見をいただければと思う。

●前田委員

県民体育館と南中高を同時に改築していくという可能性はあるか。

どちらか1つを検討するという議論でよろしいか。

○事務局

現状では、「両方の施設を使います」や「どちらかを使います」というように限定しているわけではない。

活用ができる施設として今候補が2箇所挙がっているということで、今後、この検討会の議論の中で、こういう活用の仕方をした方がより効果的ではないかという意見をいただければと思う。

●丸委員

スポーツマネジメント研究と、実務経験としてプロスポーツチーム運営、エンターテイメントの立場でお話させていただく。

伺いたい点が2点ある。

1つめは、ビッグスポーツイベントについて。県立スポーツ施設だけでは対応できないような、例えば国体、インターハイ、インカレといった、県全体が総力を挙げて、県・市町村レベルで連携していく大会が、終了した後の課題を洗い出した資料はあるのか。

○事務局

平成14年に高知県で国体がありその時に大規模な整備をした。その後の活用状況について細かい課題の洗い出しは現状できていない。可能な範囲で調べたいと思う。

●丸委員

2つめに適正サイズというところで、すべてを県で担う必要はないとは思っている。連携することによってカバーできる部分は連携してそちらにお願いするというのも、1つである。

プロスポーツチームやスポーツイベントの招へいに向けて大きい箱物を造りたいとなってしまう一方で、例えば東京都の渋谷区では、大学の体育館でプロスポーツ経営をしているところもある。

民間又は大学のような施設との連携は、今後考えているか。

○事務局

具体的なものは現状ない。民間の施設となると大規模な施設がないので、大学の施設との連携については、協議できることがあるかもしれない。長期的にどのようなスポーツが既存の施設の中で、誘致できるのか。今後意見をいただきたい。

●坂本委員

2点あり。1点目が先ほど、県全体として考える必要があるというご意見に対し、2ページ目の稼働率の話で、稼働率が99%になると機会損失が大きい場合があり、そのデータがあればいい。そのデータにより潜在的な機会損失を踏まえ、キャパの検討とかができる。

2点目が、どうしても高知市内は駐車場のキャパがない。春野総合運動公園は、この時期になると、これだけ駐車場があるが、全然停められないという状況。

春野総合運動公園は代替の駐車場がほぼないが、街中になると代替の駐車場がある可能性がある。現状のキャパ的に82台は改善する必要があるが、サテライト的に駐車場が用意できる環境にある可能性があるのか伺いたい。

○事務局

機会損失について結論から言うと、そのデータは持ち合わせていない。

管理をしている指定管理者も、抽選なので、はじかれてしまう数字を継続的に把握している状況ではないが、特に平日の夜、申し込みが重なっている。

もう1点の、サテライトとしての駐車場の確保において、県民体育館周辺で、そういった場所があるかについては、南中高の跡地付近に大きな敷地があり、大きいイベントの時はお借りして使ったりもするが、通常の県内の大会では、確保できる駐車場は現状厳しい。

道路の向かいにある県立高知工業高校の駐車場を借りたりはしているが、臨時的に確保できる場所は少ない。

春野についても大きいイベントの際は競馬場の駐車場を借りてシャトルバスを出している。

●山崎委員

高等学校の立場、体育連盟の立場で、話をさせていただく。

高知県の場合は高体連が29種目抱えており、その中には体育館種目、屋外種目、それから水泳等々があり、5月には県内一斉の県総体を開催し、それ以外にも春夏秋冬の各大会を開催している。

その際にやはり会場は不足しており、大会期間が延びている。となると結局、生徒や先生方の負担がかかることもあり、この県民体育館の場合だと、例えばバスケットボール2面、バレーボール3面というコート数があるので、最低でもこのコート数は維持したいところ。

延床面積が広くとれるのであればコート数を増やすことによって、大会期間、それから大会時間が短くなると思うので、大会以外のとき、一般の方が利用できる。そのため、コート数はしっかりと確保していただきたい。

○事務局

今の課題を捉えると、今の体育館機能として、何とか維持をしないと課題解決に繋がらない。

この課題解決を再整備の施設だけで考えるわけではなくて、その他の施設の活用と併せて高知市とも協議が必要。

一方でアリーナ整備をした場合、日常使いが少し圧迫されることが予想される。

現状ざっくりとした感覚でしかないので、もう少し数値的にもしっかりと調査、把握して、進めてまいりたい。

●森戸委員

この最後の議題、3つ「候補地と機能と規模」はまさに、この施設を何の目的として運営していくかによって自動的に決まってくる。スポーツツーリズムは一応観光分野にあるが、はっきりまだ確立されているものではない。

「するスポーツ」「見るスポーツ」と言われたりするが、そのスポーツ自体の人気によるところが大きい。例えば大谷選手を見にロサンゼルスに行くというようなツーリズムもあるが、なかなかそれを高知で実現できるかというとスポーツによる。観光地として目的地になるためには建物の魅力や場として、例えばエスコンフィールドみたいなボールパーク的な発想であったり、サンヴィレッジはすごく大規模なスタジアムを建設したが、同じことをするかは別の話。

1点質問があり、3ページの統計値について、結構楽観的すぎるかなと思っており、これは普通なのかと、少し気になった。

人口推計値はほぼ将来的にこの数字になると言われている推計値なので、もう少し間ぐ

らしい予測をとっていいと思う。

また、競技人口の定義を聞きたいが、例えば10年後20年後に、競技できる人の人口がその年齢的な要因もここに含まれているのかなと思う。

もし高齢者比率がすごく大きければ、急激に競技人口が減るタイミングがあると思う。

○事務局

人口の推移のことについては、担当の課に確認したい。競技人口の年齢の比率については10歳区切りでは把握できていない。小中高校生の競技人口は分かるが、「高齢者」というくくりで競技人口は割り出せない。ただ「高校生まで」と「それ以外」という分け方はできるので、次回、把握して準備したい。

●町田委員

教育では子どもたち目線で考えたときに、課題がたくさんあるが、「居場所づくり」と考えると、食堂とか食関係というのが今増えてきていて、スポーツ分野においても子どもたちの「居場所づくり」はキーワードとして必要でないかと思う。こういうスポーツ施設で、そういった小さなお子様から高齢の方までが使える施設など、どういう目的で誰のためにつくるのか、全国の面白い事例なども次回以降で共有したい。

○事務局

「居場所づくり」の件で今回の施設だけでカバーできる話ではないと思うが、アーバンスポーツ等は東京オリパラをきっかけに若者に人気の出てきたスポーツ。またダンス系も人気が高い。ただ今活動されている方の状況を踏まえると、まだまだ活動しにくい状況がある。協議の中で、若者が安心して利用できる施設の検討もして、若者の「居場所づくり」に繋げたい。

●渡邊委員

やはり移動手段。春野の障害者スポーツセンターでは会場に來れない障害のある方はいる。

今回の候補地は、一番来やすい位置にあると思う。

県外の施設の例を調べると、東京都には障害者スポーツセンターが2ヶ所あるが、それでもそこには行きにくい。電車も通っているが、行けない人のために、FC東京の味の素スタジアムの空きスペースを使ったパラスポーツトレーニングセンターという施設を、東京都が委託して障害者スポーツ協会が運営している。

また、下関に新しく総合体育館ができたが、下関市立の障害者スポーツセンターが閉館になり、パラスポーツサポートセンターという名前で組み込まれてサポートするセンターができている。ユニバーサルなスポーツ施設として、そういった機能も入れながらや

ると高知県内の障害のある方も来やすい、相談に行きやすい機能が持てると思う。

○事務局

様々な機能を持たせるという点では整理が難しいところではある。多くの意見をいただいたうえで次回、視察先についてもご意見いただきたい。いろんな視点を踏まえた施設を視察し共有したい。

●坂本委員

防災の観点から言うとよく出てくるのが、防災に特化した施設。

それ以外の用途がないということになるとデッドスペースになる。例えば、雨宿りに子どもが1階部分を使い、2階3階はデッドスペースになっているといった印象がある施設もみられる。

これはあくまで印象であるが、防災に特化してしまうと平常時もつたいないと思う。

コラボレーション的な観点から、防災も使えるけど平時もこういう使い方があるような機能が重要。

●森戸委員

海外の人も含めて県外の人を呼ぶとなると、公共交通機関が重要。

観光で大きめの施設となると、旧県立南中・高等学校一択かなと。

5000人くらいを意識するなら、シャトルバスは手段の一つに出てくる。そういう交通の関係も検討の材料となるのではと思う。

●町田委員

大きなイベントは「ぢばさんセンター」であるが少し遠い。新たな施設は宿泊先であったり、交通の面で既存の施設との差別化も重要ではないか。

○事務局

ぢばさんセンターを含めた関連施設の細かい状況も今後把握していきたい。

●山崎委員

4ページの施設の課題の中で、メインは県民体育館の再整備ということで、皆さんから意見をいただいているが、ここに出てくる多目的グラウンド、サッカーやラグビー、小さな屋外イベントで使う施設もやはり足りてない。

特にサッカー、ラグビー競技で使用する天然芝の会場は芝の養生期間があり、1日の試合数の制限があったり、多目的グラウンドも、できれば増やしていただきたい。

せっかく委員が集まっているので、体育館はもちろん、こういった多目的グラウンドの

施設の整備等についても、いろんなご意見をいただけたらありがたいと思う。

○事務局

4ページにも示してありますように、体育館の課題は多い。一方で現在高知ユナイテッドSCがJ3に昇格することが現実味を帯びてきたところで、サッカーに関する注目も高まってきている。サッカーやラグビーのキャンプの受入れについても、声が多くある。多目的グラウンドの整備についても、大きな課題であると捉えているので、皆様の了解が得られれば、この検討会の中で議論できればと考えている。

●前田委員

15ページで、多目的グラウンドやこの隣のアスパル高知も候補に入れられるのかというのが大きなポイントになると思うが、そのあたりの話はいかがか。

○事務局

アスパル高知は高知市の青年センターの右側のグラウンドも含めて高知市の教育委員会が所管しており、グラウンドの活用について、今後相談、確認する。

●前田委員

駐車場の件で、現状の高さ以上にできないというような規制もある中で、一体的なものを作ったりとか、そういうような検討はされているか。具体的な施設の構造とか。

○事務局

第一種住居地域なので規制が多い中、2階3階のタワー等も考えられるが、まだ明確な案は持ちあわせていない。

●丸委員

スポーツマネジメントの視点から考えると、スポーツは、目的ではなくて手段。スポーツを通じたまちづくりというコンセプトで、例えば先ほどの防災関係でいうと、よくよく事例を分解すると、成功しているところはプロスポーツが主導している事例が多々ある。17ページの2と3の機能と規模を決めるためには、あくまで個人的な提案であるが、対象の優先順位とか範囲をまず決めていかないと、あれもこれもになってしまうと結局、中途半端なものできてしまうという意味で、話を伺う限りは、まずは若年層の方をしっかりと獲得していくことが一番と感じた。

一方で、スポーツ競技者のみが対象とも限らず、スポーツ、健康、もっと言うと、心豊かな人生づくりにスポーツを手段として使う、ということが実は現代のスポーツマネジメントの流れ。なので、むしろスポーツと関係ない人にも来てもらえる場所にしていく

ことも重要。

地域課題の解決の場所づくりを進めていけば、実は人口減は怖くない。例えば、中年層の方の散歩を、ウォーキング・ジョギング+αという豊かなレジャーに変えていくなどすれば、対象者は、今と同様に一定数を確保できると思う。というような視点まで言い出すとこれまたきりがないので、そういった意味で、ターゲットをどこにするか、最大の目的は何にするか、次回、1つの方向性として決めていけば、パズルが決まっていくのかなと。

アスリートファーストは最優先事項だが、それだけとは限らないということも提案させていただく。

●前田委員

スポーツだけ、とした議論になってしまうとどうしても、頭打ちになる。

今アーバンスポーツというキーワードも出てきたが、そうした新しいものがどんどんスポーツとして普及し始めている。今現在全国的にも運動している人は50%程度の数字。週1回の運動をしている人が50%に留まっていると思えば、もう少し運動の習慣というのを促すような形をとれるような仕組みも必要。

そして文化的なものなど、先ほどのコンサートという手段も一つであり、優先順位のつけ方を今後議論すべきである。

3 閉会

以上